**六地蔵（ろくじぞう）広場**

六地蔵広場は内山（うちやま）地区の中心部から川を渡った場所にある。広場の一角にある小さな墓地の入り口に、6体の地蔵菩薩の像が立っている。六地蔵の名で知られるこれらの像は、輪廻転生（仏教における生死の繰り返し）の六道（地獄（じごく）、餓鬼（がき）、畜生（ちくしょう）、修羅（しゅら）、人間（にんげん）、天上（てんじょう））を通して人々を導いてくれると言われている。また地蔵菩薩は、子供、中でも幼くして亡くなった子供の魂を救う守護者とも言われている。像にはよく赤い前掛けが掛けられている。これは赤という色が、安全、そして魔除けを表す色だと言われているためである。

このような六地蔵の石像は日本全国で見ることができる。有田では、岩谷川内（いわやがわち）地区、稗古場（ひえこば）地区の報恩寺（ほうおんじ）正面、大樽（おおだる）地区の三空庵（さんこあん）広場など、有田町内には他にも六地蔵を見ることのできる場所がある。

この広場にはかつて、磁器の原料となる石を砕くために使われたトリップハンマーという水力駆動のハンマーが所狭しと置かれていた。現在この機械装置はひとつも残っていないが、1984年に天狗谷（てんぐだに）窯跡の近くにレプリカが2つ作られた。